

特別支援教育講座 受講生募集要項

1. プログラムの趣旨

「特別支援教育」は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものとされています。

大妻女子大学児童臨床研究センターでは、今年度より専門性の向上のため、「特別支援教育に対して自らの考えを深める・広げる」をテーマに、さまざまな観点から講義・演習を行います。特別支援教育に携わる、また携わりたいと考えている方々にとっては、ご自身の興味に向き合い、かつ自らの実践を省みる機会となると思われます。

つきましては、以下の通り、受講生の募集を行いますので、ご関心がおありの方は、ぜひご応募ください。

2. 日程と会場

令和5年10月14日（土）、令和5年10月28日（土）、令和5年11月11日（土）
令和5年11月25日（土）令和5年12月9日（土）、 5日間10講座

大妻女子大学（千代田キャンパス）

3. プログラムの内容 別紙参照

4. 受講料（資料代込）

5,000円（本学3,4年生は3,000円）

5. 受講対象

- ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の先生
- ・特別支援教育に参加している支援員や補助員の方
- ・特別支援教育に関心があり、基本的な知識及び支援方法を学びたい方
- ・実習を経験した本学3,4年生

6. 募集人数

計30名（定員になり次第、ホームページでお知らせします）

7. 募集期間

令和5年10月6日（金）締め切り

8. 申込方法

以下の手順でご応募ください。

- （1）「特別支援教育講座 申込みフォーム」に必要事項を入力の上、お申込みください。
- （2）外部の方は、募集期間が終了後、受講が決定した方には「受講料振込先メール」をお送りいたします。「受講料振込先メール」に記載された振込先に、10月10日（火）までに受講料をお振込み下さい。
- （3）在学学生は、10月6日（金）までに申込み登録を完了し、10月10日（火）～12日（木）の期間にパピルスメイトにて受講料をお振込みください。

注）応募いただいた際のメールアドレスに“返信”をします。上記メールアドレスからの受信ができるよう、メールの受信設定を必ずご確認ください。よろしくお願いいたします。

- (4) 指定期間内に振込が完了された方に「受講決定通知」をメールにてお送りし、受講生として登録いたします。

9. 申込先

URL

<https://forms.gle/TbLwtXKrfqd3VoAs7>



QR コードはこちらから

10. 選考方法

受講人数が定員数を超えた場合には抽選を行い、決定した方にのみ「受講料振込先メール」をお送りいたします。

11. 応募先・問い合わせ

大妻女子大学家政学部 児童臨床研究センター

〒102-8357 東京都千代田区三番町 12

TEL : 03-5275-6129 FAX : 03-5275-5252 / E-Mail : jirinken@ml.otsuma.ac.jp

月～金 : 10 : 00～16 : 30

テーマと概要

実施日：10月14日（吉田明子）

テーマ：本人と保護者の役に立つ「個別の支援・指導計画書」

概要：特別な支援が必要とされる生徒には、さまざまな理由から検査結果、診断書の取得に至らず、困難を抱えたまま学校の生活や学びに参加しているケースが多くあります。

今回は、CASE Japan で相談を受けている事例を基に、保護者から学校へのアプローチ、学校や医療、その他の機関が連携協力して「個別の支援・指導計画書」を作成する過程とその後の様子から本人と保護者の障害受容と成長をお伝えします。

実施日：10月14日（北嶋淳）

テーマ：障害児教育の原点を求めて—いそがば戻れ—

概要：私は現在、重症児児童発達支援管理責任者として療育に携わっている者です。はじめて障害児教育に携わったのは、障害児の全員就学義務制が始まる直前であり、そこから教師として主に肢体不自由教育の現場で45年間教育を行なってきました。その間、学校及び地域の親子学習会を通して障害児の母親の指導も続けて今日に至っています。私はこの46年間に、障害の重い子どもたちの教育・子育ての在り方が、社会の情勢と共にどのように変わってきたのかを、いわば身をもって体験してきたのですが、障害児教育の方法論の変遷をたどる時、一つの結論を得ております、それを一言で言い表せば「大本をたずねて、元から辿る」というものです。この大本とは「人間とはなにか」「教育とはなにか」であり、そこをたずね、そこから障害を負った子供たちの育て方・育ち方を見つめていけば、どう育てて（教育して）いけば良いのかの答え（方法）が見つけられていくのです。こうした結論に至った理由を、私自身の個人史に重ねて述べていただき、より確かな障害児教育の道筋を共有したいと思っております。

実施日：10月28日（渡邊智美）

テーマ：当事者から見た母子感染症と医療・療育・教育関係者へ向けたメッセージ

概要：妊娠中に母子感染予防指導や抗体検査等されないまま、先天性トキソプラズマ症と先天性サイトメガロウイルス（CMV）感染症と診断された子を出産した3組の親子の経験を通して考える、当事者視点での現在の日本の周産期医療・療育・教育における足りない部分や要望をお伝えする。

実施日：10月28日（綿貫愛子）

テーマ：「自分らしく生きること」を支える特別支援教育

概要：近年、多種多様な人びとが互いの考えや価値観、スタイルなどの違いを受け入れ、尊重しながら、ともに成長し発展することを目指す「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方が推進されている。そこでは、定型発達（多数派）モデルを目指すのではなく、自分らしく物事を考えることができ、自分らしく表現することができるなど、「自分らしく生きる」ことが尊重される。発達障害に関する最近の研究動向を紹介し、特別支援教育とキャリア教育について再考する。

実施日：11月11日（加藤奈保美）

テーマ：乳幼児期のこころとからだのつながり

概要：乳児期から幼児期にかけての子どもの運動発達は進化の連続です。たんに生理学的なからだ、運動ととらえるだけでなく、こころの発達と相まって自分のからだところを調整する力が育つ重要な時期と言えるでしょう。脳性まひのお子さんの動きの獲得のしかたや、ダウン症のあるお子さんのからだの使い方の特徴、発達に偏りのあるお子さんの感覚の過敏さなど「からだところのつながり」を見ながら子ども理解を深めてまいりましょう。

実施日：11月11日（加藤裕美子）

テーマ：子どもの意識性やイマジネーションの世界を広げる感覚あそび

概要：子どもが「あそび」を通していろいろな力をつけていくことはよく知られています。あそびの内容を見ると、触れる、揺れる、動かす、見る、聴くといった感覚（活動）を通して自己のからだに対する意識性を高めたり、外界の存在に気づいたりします。大人が子どもから発信する小さな声やどんな動きでもそれが心の表し方だと認めることで、多様性や個性を見つけることができます。まずは、五感をフルに生かしたあそびなどを通して素の自分を見つめることから考えてみませんか。

実施日：11月25日（若井広太郎）

テーマ：幼稚園や小中学校における気になる子の理解と支援

概要：幼稚園や小中学校に在籍している気になる子どもの理解と支援について一緒に考えてみませんか？具体的な体験活動や教材教具のアイデア、支援方法の紹介などを通して、就学前、学齢期における多様な子どもたちの学びをどのように支えるか考えたいと思います。教育現場で子どもたちに関わっておられる幼稚園、小中学校の先生に加えて、さまざまな立場の方にもご参加をいただけましたら嬉しいです。

実施日：11月25日（吉田光伸）

テーマ：障害の重い子どもたちとどう関わっていくのか —子どもたちの事例を通して

概要：肢体不自由特別支援学校に在籍する子どもたちの多くは、視覚・聴覚などの複数の障害を併せもっています。重い運動障害があり、自分の意思の表出の手段をもたないことから、コミュニケーション面で多くの困難を抱えています。しかし、重い障害をもつ子どもたちも、さまざまな思いやそれを伝えたい気持ちをもっています。子どもたちがどのように思いを表現し、自分の力を発揮して学習する姿を見せてくれたのか、事例を通してお伝えすることで、子どもたちとの関わり方を考えてみたいと思います。

実施日：12月9日（鳥海順子）

テーマ：特別支援教育制度と特別支援教育支援員の役割に関する基礎的理解

概要：特別な教育的ニーズに応じた適切な教育を実施するために、特別支援教育支援員の活用が一層重要になってきました。この講義では、特別支援教育支援員が配置されるようになった経緯や特別支援教育の制度、特別支援教育支援員の役割について概説します。我が国で特別支援教育が誕生した背景を知り、今後どのような方向に向かって進もうとしているのかを見通しながら、特別支援教育支援員の役割を理解していただければと考えています。

実施日：12月9日（高橋ゆう子）

テーマ：「特別な支援を要する」事態の理解と支援の再考

概要：ある校長先生に次のような話を聞いたことがあります。「本当は子どもたちみんな、特別支援教育の対象だと思うんですね。支援の要らない子どもはいないし、一人一人特別なはず。」私も、特別支援教育がめざすのは、どんなことだと思うか、とある研修会で質問を受けた際、「特別支援教育という言葉が、使われなくなることだと思います」と答えたことがありました。誰がどのような状況を、「特別な支援を要する」事態と考えて、子どもたちに関わっているのか、について関係性の視点から整理し、子どもの発達、健やかな成長を願う大人として何ができるか、考えたいと思います。

令和5年度 特別支援教育講座プログラム

回	講義日	時間	テーマ	講師	場所
1	10月14日 (土)	13:00~14:30	本人と保護者の役に立つ 「個別の支援・指導計画書」	NPO 法人 CASE JAPAN 代表 吉田 明子	千代田 キャンパス 本館F棟742 11月11日 14:40~16:10 本館F棟744
2		14:40~16:10	障害児教育の原点を求めて ーいそがば戻れー	児童発達支援・放課後等デイサービス「ふわっと」 管理責任者 北嶋 淳	
3	10月28日 (土)	13:00~14:30	当事者から見た母子感染症と医療・療 育・教育関係者へ向けたメッセージ	先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会 「トーチの会」 代表 渡邊 智美	
4		14:40~16:10	「自分らしく生きること」を支える 特別支援教育	NPO 法人 東京都自閉症協会 役員 綿貫 愛子	
5	11月11日 (土)	13:00~14:30	乳幼児期のこころとからだのつながり	東海大学 非常勤講師 加藤 奈保美	
6		14:40~16:10	子どもの意識性やイマジネーションの 世界を広げる感覚遊び	大妻女子大学 児童臨床研究センター 加藤 裕美子	
7	11月25日 (土)	13:00~14:30	幼稚園や小中学校における気になる子の 理解と支援	東京家政大学 講師 若井 広太郎	
8		14:40~16:10	障害の重い子どもたちとどう関わってい くのか -子どもたちの事例を通して-	都立 光明学園 教諭 吉田 光伸	
9	12月9日 (土)	13:00~14:30	特別支援教育制度と特別支援教育支援員 の役割に関する基礎的理解	大妻女子大学 鳥海 順子	
10		14:40~16:10	「特別な支援を要する」事態の理解と 支援の再考	大妻女子大学 高橋 ゆう子	